

令和7年度

学力向上プラン

【後期】

上尾市立原市南小学校

上尾市立原市南小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

- よく励む子
- 心さわやかな子
- 粘り強い子

学校課題研究主題

主体的にねばり強く何事にも取り組む児童生徒の育成
～つながりを大切にした小中一貫教育～

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査

- 国語の平均正答率は県、全国平均よりやや上回っている。また、書くこと・読むことは全国・県平均よりも上回っている。
- 算数の平均正答率は県、全国平均よりやや上回っている。特に「変化と関係」の領域が上回っている。
- 理科の平均正答率は県、全国平均より上回っている。特に「エネルギー」の領域が上回っている。
- 国語は、漢字の活用の仕方が課題として考えられる。
- 算数は、「図形の領域」が県よりも正答率が低く、図形の性質や式を説明することが課題として考えられる。
- 理科は、「生命」に関する知識が課題として考えられる。

R7 埼玉県学力・学習状況調査

- 国語・算数ともに学力レベルは、埼玉県・上尾市と同程度である。（4年）
- 国語・算数ともに学力レベルは埼玉県・上尾市と同程度である。（5年）
- 国語・算数ともに学力レベルは埼玉県・上尾市と同程度である。算数においては県よりも1レベル高かった（6年）
- 国語においては、4年～6年までのどの学年も自分の考えを書く内容になると無解答率が上がることが課題として考えられる。
- 算数においては、どの学年も既習事項と関連付けて考えることが課題として考えられる。

R6 上尾市立小・中学校学力調査

- 【観点別正答率】
- 国語の2年、3年、4年、5年、6年は目標値以上、または同程度である。
 - 算数の2年、5年は目標値以上である。
 - 国語の6年の知識・技能と全体的に主体的に学習に取り組む態度に課題が見られる。
 - 算数の知識・技能は3年、4年、6年が目標値よりも低く、思考・判断・表現では、3年、6年は目標値よりも低いことが課題である。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得

- ①物事の中心を捉え、新たな問題場面に使える知識・技能を習得する力
- ②よりよく問題を解決するための方法・知識の獲得

思考力・判断力・表現力等の育成

- ③既習事項や生活経験などの先行経験をもとに、考えの根拠を明らかにし、筋道立てて説明・記述する力

学びに向かう力・人間性等の涵養

- ④自分の心を律しながら、意欲的に問題解決に向け、粘り強く取り組む力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得

- 相違点や類似点に着目して問題を把握し、課題を焦点化する過程を大切にすることで授業の中心を捉えられるようにする。
- 内容のまとめに加えて学習方法の振り返りでは、何を学び、次はどうしたいか自分事ととして考えさせ、身に付けたことが実践につながるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

- 各教科の特質に応じた見方・考え方を働きながら、知識を相互に関連付けながら考えたり、説明したりする過程を重視した学習を行う。
- 児童の実態・発達段階に応じた思考の成長の系統を明確にした指導計画を立て、実行する。

学びに向かう力・人間性等の涵養

- 学習の必要感に基づく問題解決型の授業を展開することで、児童の主体的な活動が継続できるようとする。
- 児童の実態に合わせて、スマールステップで課題を与えることで、達成感やさらに深めたいという主体性を引き出すようとする。

本校の特色ある取組

- 图画工作科の朝鑑賞 ○外国語教育の充実
- 道徳科の充実 ○読書活動の充実
- 「あげお学びのイノベーション」に基づく新しい学習環境づくり

家庭教育との連携

- 学校についての情報発信
- 学校応援団の活用
- 家庭学習への取組

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力		
知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①物事の中心を捉え、新たな問題場面に使える知識・技能を習得する力 ②よりよく問題を解決するための方法・知識の獲得	③既習事項や生活経験などの先行経験をもとに、考えの根拠を明らかにし、筋道立てて説明する力	④自分の心を律しながら、意欲的に問題解決に向け、粘り強く取り組む力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、③	①「はをへ」を使った文の練習を継続的に行う。 ③継続的に日記（条件作文）に取り組ませる。	
算数	②、④	②前時のまとめや振り返りを確認し、本時の問題との違いを比べさせる。 ④間違いを修正する活動に粘り強く取り組ませたり、具体物を用いて可視化したりして課題解決につなげる。	
生活	③	③体験的な活動を通して、気付いたことをわかりやすく伝える活動を取り入れるための場を随時設定する。 ③生活科を起点とし、教科等横断的な視点をもって、観察カードの作成に取り組む。	
音楽	④	④範唱を聴いて歌ったり階名で模唱したり、お互いに歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌えるようにする。	
図画工作	③、④	③作品鑑賞の際に対話を通じて、生き生きと発想する力を養う。 ④子供が意欲的に活動したくなるような題材設定や導入場面を考える。	
体育	②、④	②児童の気付きをワンポイントアドバイスとして示すことで、知識の焦点化を図る。 ④全員が楽しんで活動できるような場の設定を子供たち自身に考えさせる。	
英語活動	③	③児童の興味を惹くようなアクティビティを毎時間設定する。	
特別の教科 道徳	③	③ロールプレイ・役割演技を通して、多様な心情を理解できるようにする。	

A…取組の効果が十分に見られた B…今後も課題として取り組む C…取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力		
知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①物事の中心を捉え、新たな問題場面に使える知識・技能を習得する力 ②よりよく問題を解決するための方法・知識の獲得	③既習事項や生活経験などの先行経験をもとに、考えの根拠を明らかにし、筋道立てて説明する力	④自分の心を律しながら、意欲的に問題解決に向け、粘り強く取り組む力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	③	③物語や説明文を読んでわかったことや考えたことを書いたり、話したりする活動を取り入れる。	
社会	③	③資料から課題解決に向けた情報を選択し、適切な形で表現させる。	
算数	③	③自力解決の時間と比較・検討の時間を確保し自分の考えを図や式、言葉を使って相手に伝わるように説明する機会を設ける。	
理科	③	③問題に対し、生活経験や既習事項を基に、自分なりの根拠をもって予想をたてさせる。	
音楽	④	④範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌えるようにする。また、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて声を合わせて歌えるようにする。	
図画工作	①、③	①既習の技法や多様な材料を選択させることで表し方を工夫できるようにする。 ③既習事項を生かし、発想や構想を繰り返し思考できるよう、導入の工夫をする。	
体育	②	②課題を児童から引き出し、自分に合った課題の解決に向けて取り組ませる。	
外国語活動	①	①目的・場面・状況に応じた言語活動を通して、コミュニケーションに必要な言語材料に慣れ親しませる。	
特別の教科 道徳	④	④教科書を活用し、道徳的価値の一般化ができるような柱立てや発問を工夫し、今後の生き方に生かせるようにする。	

A…取組の効果が十分に見られた B…今後も課題として取り組む C…取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①物事の中心を捉え、新たな問題場面に使える知識・技能を習得する力 ②よりよく問題を解決するための方法・知識の獲得	③既習事項や生活経験などの先行経験をもとに、考えの根拠を明らかにし、筋道立てて説明する力	④自分の心を律しながら、意欲的に問題解決に向け、粘り強く取り組む力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、③	①③人物像や気持ちの変化を把握するため、根拠となる文章を基に自分の考えをもたせ、理由を明確にして内容を読み取らせる。また、繰り返し言語知識を習得できるようにする。	
社会	①、③	①③学習内容と自分のまわりの生活を比較させ、その違いや変容を考えるような視点を与えて、まとめさせる。	
算数	②、③	②③比較・検討の場面で、共通点や相違点など、学びを深める観点を明確にすることで、自分の言葉でまとめさせる。また、全体で進め方を共有し、自力解決の時間を確保する。	
理科	①、③	①③根拠ある予想を立てさせるため、既習内容や生活経験の確認を行い、予想に即した結果の確認を行う。	
音楽	④	④範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たり歌ったり、各声部の歌声や全体の響きや伴奏を聴いて声を合わせて歌えるようにする。	
図画工作	③	③形や色などの見方や考え方を広げるため、楽しく表現したり、鑑賞したりすることができる授業と朝鑑賞の充実を図る。	
家庭	③	③生活の中から問題を見い出し、家庭と連携して、実生活との関連を図り、実践的・体験的な活動、問題解決的な授業を展開する。	
体育	③	③各種の運動の楽しさを味わい、自分や周りの運動の課題や健康の課題を見つけ、その解決のための方法や活動を考え、表現させる。	
外国語科	②、③	②③コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、自分の考え方や気持ちをお互いに伝えあわせる。	
特別の教科 道徳	④	④様々な視点から物事を多面的・多角的に考え、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重し、自分のものの見方や考え方の認識を深めさせる。	

A…取組の効果が十分に見られた B…今後も課題として取り組む C…取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○図画工作科の朝鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科・領域への効果を意識した、思考力・判断力・表現力の向上 ・鑑賞活動をすることによる表現場面の意図的な設定 ・鑑賞活動を通して、教師と児童の対話力の向上 ・自由な発言ができるような発問の工夫 ・非認知能力の向上
○外国語教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を通じて、自律的・主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ・安心感をもち、発話への自信をつけられるようにするための単元の構成を児童と共有 ・単語の導入から文章表現の導入へ、易しいものから難しいものへの移行 ・話したくなる（活動したくなる）目的や場面・状況の工夫 ○日常的に外国語に触れる環境 ・MINAMI スピーチコンテストの実施 ・Englishcafe の実施
○道徳科の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教科書や資料の効果的な活用 ○児童一人一人の学習状況や道徳性に係る考えを継続的に把握するための道徳ノートの作成 ○「自分のこと」として考えるための「書く活動」の導入
○読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業日における学校図書館開館の実施 ○読書パスポートの活用 ○読書月間の取組（もじとり読書、先生からのおすすめ本紹介等）
○「あげお学びのイノベーション」に基づく新しい学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○eboard を活用した学習内容の定着や個に応じた学び直しの機会の確保 ○schoolTakt を活用した教材の作成と共有化 ○schoolTakt を活用した児童の考え方や表現の共有と相互評価の実施 ○常に手元にICT端末を置き、自分の目的に応じた課題に取り組んだり、活用したりすることができる環境づくり（1～6年全学年での活用）
家庭教育との連携	
○学校についての情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の活動の様子やICT機器の活用など、原市南小の教育活動の定期的な発信（学校HPの更新） ○学校だより・学年からのお知らせの発行（毎月） ○さくら連絡網を活用した情報発信・アンケート収集
○学校応援団の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○授業サポート等を年間指導計画上に明記した計画的・発展的な取組推進（学校応援コーディネーターとの連携） ○PTAや地域と連携した学校応援団組織の構築
○家庭学習への取組	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の内容と取り組ませ方の工夫（読み・書き・計算・調査に重点を置いた課題） ○各種学力調査の分析結果に基づく課題や取組についての情報提供